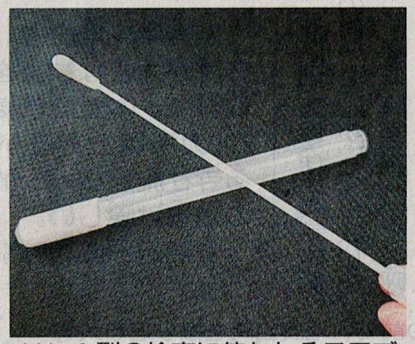
若いドナー増へ 新システム

ウェブで登録、スワブ検査

骨髄バンク、導入へ

白血病など血液の病気を治すのに必要な「造血幹細胞」の提供者（ドナー）となる登録者数を若い世代で増やしたい―。日本骨髄バンクはそんな目標を掲げ、ドナー確保のための新たなシステムづくりを進めている。



ＨＬＡ型の検査に使われるスワブ＝いずれも日本骨髄バンク提供

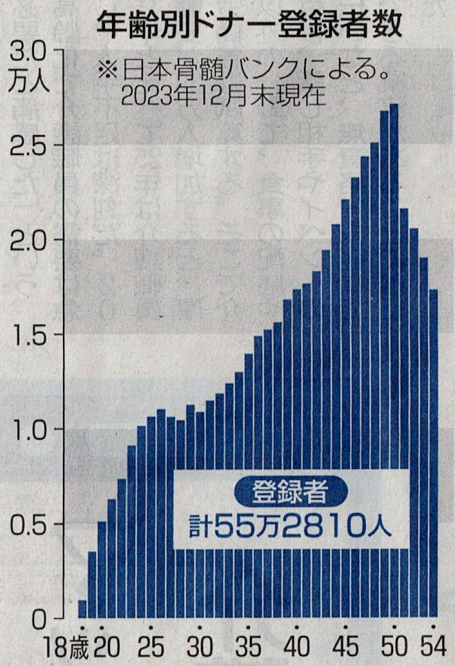
■10万人が「引退」

骨髄バンクは、健康な人をドナー候補者として登録し、造血幹細胞の移植を必要とする患者が現れたとき、「ＨＬＡ」という白血球の型が一致するドナーを選んで移植を仲介する仕組みだ。

ドナー登録ができるのは18～54歳で、登録者数は昨年12月末時点で約55万人。ドナーは若い方が移植成績は良いという事実があるものの、50歳の約2万7千人をピークに40代後半以降が多い。

造血幹細胞を採取する際の安全性に配慮し55歳の誕生日で登録から外すルールになっており、今後5年以内に10万人余りが年齢を理由に「引退」する見通しだ。

移植が必要な患者は年間2千人前後。血縁のない人の間でＨＬＡ型が一致する確率は数百分の1から数万分の1と低く、移植が受けられる人は全体の約半数にとどまる。



今年２月、プロ野球巨人の宮崎キャンプで開かれたドナー登録イベント

■移植成績向上も

この状況を打開するため骨髄バンクは、ウェブでの「オンライン登録」と「スワブ検査」の導入を目指している。現在、ドナー登録をするには献血ルームや献血会場、血液センター、保健所などで登録申請書を提出し、ＨＬＡ型を調べるため少量の血液を採る、という手順を踏む。

オンライン登録では、骨髄バンクのウェブサイトにつながるＱＲコードを印刷したチラシをイベント会場などで配布。希望者がアクセスすると、提供に至るまでの流れを説明する5分程度の動画が流れ、それを視聴した上で登録を申し込む。

すると「スワブ」という綿棒に似た器具が届けられ、それを使って頬の内側をこすり粘膜の組織を採取する。返送すると検査会社がＨＬＡ型を調べ、結果が登録される。

厚生労働省研究班が2020～21年に、ドナー約110人の協力を得て、スワブ検査と血液検査の結果を比べたところ、全例で一致していた。

骨髄バンクの小川みどり事務局長は「スワブ検査で採用する方法は現行の登録時の血液検査に比べ、ＨＬＡ型についてより詳細な情報が得られるため移植成績の向上にもつながる」と説明する。

■意志確認促す

厚労省研究班が18～39歳の3万人に実施したアンケートではドナー登録をする場合、オンライン登録を希望するとの答えが64％を占めた。

小川さんによると、オンライン登録により、提供する意志の強いドナーが増え、移植件数の増加も期待できるという。

ＨＬＡ型の合うドナーが見つかっても移植に至らない場合、ほとんどはドナー側の理由による。その65％は「都合がつかない」「連絡が取れない」など健康面以外の事情によるものだ。

「登録者に意志確認を促す仕組みになっていないことが考えられる。オンライン登録は動画視聴、スワブ検査など自ら能動的に行動してはじめて登録できる点で、意志の強いドナーが今よりも増えると考えている」

骨髄バンクはイベント会場などで、オンライン登録とスワブ検査の試行に取り組む。26年度から正式のシステムとして導入する計画だ。

すこやかゼミ